



およげないりすさん

2024/9/17

No.28

岩瀬和信

どうとく 道徳。『およげないりすさん』というお話しです。

お話を読むだけでなく、みんなで演技しています。登場するのは、あひるさん、かめさん、白鳥さん、そして泳げないりすさん。

役になった子が先生の朗読に続けて演技します。

「やっぱり、りすさんがいたほうがいいね」

「でも、りすさんはおよげないからな」

池の島で三匹で遊んでいてもちっとも楽しくなかったのは

どうしてなのか。ここは、大事な気持ちです。時間をとって考えます。



最初はもやもやしている感情や思考も、自分の言葉で表現することで意識的に捉えられるようになります。

先生が作ったお手製のプリントに、自分の言葉で書いていきます。

しかし、まだそれほど豊かな言葉を持たない子どもたちには対話が必要。

自分の気持ちにどんな言葉が合うのか、先生に聞きに行ったり、お隣りとペアで対話したりして言葉を見つけていきます。今日は教頭先生も思考のお手伝いをしています。

「りすさんをさあ、池の向こうに置いて来ちゃったじゃん」

「それって、どんな気持ちなんだろね」

「誰が？」

「そうだなあ。そう『いい考えがある』って言ったかめさんはどんな気持ちだったんだろ」

「かめさん、ずっと考えてたのかな、遊びながら」

かめさんの気持ちが心に入ってきます。



言葉によって「姿勢」も変わる。人生そのものも変わっていく。

(三浦崇宏)